

クリンテートシリーズ「調光」の効果確認試験

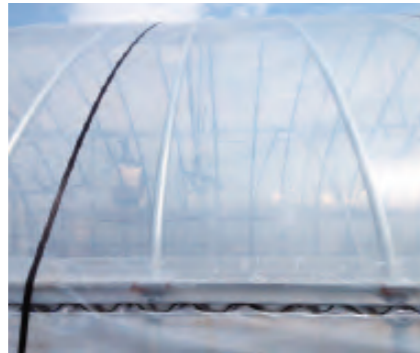


JA伊達市

大滝 真



慣行区(5月29日撮影 外気温29℃)



試験区(5月29日撮影 外気温29℃)



手前試験区、奥慣行区(5月29日撮影)

試験目的

光制御型農業用フィルム(調光)の効果確認

試験作物 及び品種

高糖度トマト(桃太郎ファイト)

試験資材 及び数量(規格)

調光(0.15mm×740cm×51m)

慣行資材

クリンテートFXUV、テキナシUV、ダイヤスターUV

栽培方法

定植日	収穫日	【栽植密度】
慣行区:5月20日 試験区:5月20日	慣行区:7月上旬~9月中旬 試験区:7月上旬~9月中旬	φ21cmポット 6列 株間:40cm

資材使用期間

4月中旬~11月下旬

試験区面積

280㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品と変わらない。

展張作業時も差を感じることは無かった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

外気温によってフィルムの色が変わるのが確認できた。今年の天候では、はっきりとした差が見られなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 外気温によってフィルムの色が変わる点。
夏場の高温障害対策効果が期待出来る。

【問題点】: 価格が高い点。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

従来の長期展張型POフィルムよりも耐久性が高く、長く使用出来る設計になっていると聞いたが、気象条件等の影響により耐用年数が異なるので、どうなるかわからない。

(5)促成・抑制効果について

今年の天候では、はっきりした差がわからなかった。

(6)保温効果について

今年の天候では、はっきりした差がわからなかった。外気温が高い日は、フィルムが白くなっているのが確認できた。

ハウス内温度を1~2℃下げた場合に、収量や品質がどれくらい違ってくるのか引き続き観察していきたい。

(7)雑草・病害虫の発生について

慣行品と変わらない。

モニター感想

今年は、天候が悪く暑かったのはお盆前からの2週間程度であったため調光の効果ははっきりわからなかった。

しかしながら、急に暑くなった際の急激な温度変化を防ぐ効果は、野菜には良いことだと考える。

悪い点は見当たらなかった。引き続き効果を観察していきたい。

JA担当者の感想(生産資材課 伊藤係長)

夏場の高温対策効果が期待されており、生産者の関心が高い資材であるが、値段の高いのがネックである。

今年は、販売開始から2年目になるので他地区での使用状況、効果を確認しながら当JAの生産者にも推進していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

将来希望する資材について

調光UVを作って欲しい。

今の調光よりも暑い時に、もっと白く変化して遮光効果があるフィルムを開発して欲しい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 クリントテート

5 機能性マルチ

6 育苗資材

7 不織布

8 その他